

～児童・生徒と地域の大人の対話会～

県民あげて取り組んでいる“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動においては、学校、家庭及び地域が連携して、「いじめ・非行を許さない」環境づくりを進めることとしています。また、その一環として、児童生徒がいじめの防止・根絶や、自分たちの生活を整えることについて、地域の大人とともに主体的に考え、また具体的に取り組む契機とするため「児童・生徒と地域の大人の対話会」を実施しています。今回は上山市で開催された様子を紹介します。

SNS上でのトラブルについて考える

ふれあいトークかみのやま

12月10日（水）上山警察署で、上

山地区少年補導連絡会（会長鈴木萬四

郎氏）と上山警察署が「ふれあいトー

クかみのやま2025」を開催しまし

た。対話会には、上山明新館高校や市

内中学校、上山高等養護学校の生徒31

名と教職員7名、また、青少年育成市

民会議など、健全育成に関わる団体23

人の計61名が参加し、9つのグループ

に分かれてグループ討議を行いました、討議Ⅰでは、メッセー

ジの返信が遅れただけで、友達から冷たい態度をとられた事例

を見ながら、感想や意見を交換しました。

あるグループの内容を紹介します。

「我々の場合、電話やメッセージをすぐに返せない状況の方が

多い。すぐに返さないからと言って、関係性が変わるわけでは

ない。また、予定がはつきりしていないなら、返事もできない。そ

う考えると、返信が遅れたとしても、冷たい態度をとるのはど

うかと思う。」（大人）

「予定を確認しないと一緒に遊べるかどうか分からないとして

も、そのことをまずは返しておくべきだった。発信した人に対

する礼儀だと思う。」（中学生）このように、世代間で大きな違

いがあることをあらためて認識できました。



それを受けて討議Ⅱでは、「SNSの作法・SNSと新しい人間社会」という視点で、今後に向けての課題と思われる内容を話し合いました。

まとめとして発表された内容は、「発信している内容は誰かに見られているという危機感を持つこと」「相手の顔が見えないから怖いということを認識する必要がある」「誤解を与えないような表現方法」「お互いに理解する」「わかりやすい、丁寧な言葉遣いをする」等の意見が出ました。SNSを否定するのではなく、そのよさを活かすような使い方が重要です。

上山明新館高校の平田校長は講評で、「幅広い年代が集まって話をするというのは、とても貴重。様々な見方、考え方があって、多様な意見の中から協働で意見を作っていく、その過程が大事だと思う。今日、ここで得た情報をそれぞれ持ち帰って、日頃の生活に活かして欲しい。」と述べていました。

最後に参加してみての感想を聞いてみました。「違う世代の人の考えを知ること、世代の違いが意見の違いに大きく影響していることがわかって、とても楽しかった」（中学生）、「年代が違えば育ってきた環境も違うのだから、考えることも違う。私たちが当たり前と思っていたことが当たり前でないことがわかって、参加してよかったと思う。」（高校生）と話していました。

